

地域人

vol. 41

地域を守り
育む人たち

「赤い妖精－ハッチョウトンボ」

ハッチョウトンボを守る会 会長 横田 芳武
(よこた・よしたけ)

今回の「地域人」は、ハッチョウトンボを守る会 会長として活躍しておられる横田 芳武さんをご紹介します。

「ハッチョウトンボを守る会」が発足したきっかけは、平成21年にたまたま通行人が耕作放棄地の中に1円玉サイズの小さな赤いトンボを発見しました。最初は赤トンボの赤ちゃん程度の認識しかありませんでしたが、地域の活性化会議（雲城まちづくり委員会）で調査したところ、世界一小さいトンボとして知られる「ハッチョウトンボ」であることが分かり、地域の宝として保全活動を始めることになりました。

このハッチョウトンボは、しまねレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている希少なトンボです。

会の主な活動内容は、「絶滅危惧種の生育地の保全活動で地域力の資源を次世代に繋げたい。」をモットーに、低山地や休耕田をハッチョウトンボが生息しやすくなるように環境整備をすることでハッチョウトンボの保護をおこないながら、案内図の取り付けや駐車場等の整備などもおこない、多くの方に来てもらえるよう、交流人口の増加に向け取り組んでいます。

しかし、ハッチョウトンボの生息地は日当たりがよく、草丈の低い湿地帯ですが、近年は、埋め立てや湿地の乾燥化、また伸び放題の雑草により生息地の減少傾向が顕著となっています。そのため、特にトンボの飛来最盛期となる5月から8月にかけてトンボが過ごしやす

い環境となるように、整備や管理をおこなっています。

この整備した耕作放棄地は、現在は島根県のみんで守る郷土の自然選定地のひとつ「雲城トンボ公園（約30アール）」として親しまれています。なお、整備するにあたり一番苦労したところは、人工的に作った湿地帯のうえに渡り橋をつくったところです。この橋は完成までに2年かかりました。

また、地域住民をはじめ多くの方に理解を求めするため、公民館・保育園・小学校・中学校・高校・大学に対し、観察会などを実施し「地域の宝」として再認識してもらえよう取り組んでおります。

今後も自然とのふれあい活動を持続して、金城の波佐地区（ほたる）、久佐地区（馬）との3点セットで、地域の活性化のため協力しながら、観光交流人口の誘致に取り組んでいきたいと思ひます。

最後になりますが、5月から8月まで多くのハッチョウトンボが飛び交っています。特に成長したオスは「赤い妖精」とも呼ばれるほど全身が鮮やかな赤色になります。皆さんもぜひ一度、雲城トンボ公園まで赤い妖精に会いにお越しください。お待ちしております。



金城町雲城地区にある休耕田

雲城公民館

〒697-0121 島根県浜田市金城町下来原171
Tel・Fax / 0855-42-2076



県民いきいき活動奨励賞受賞の様子